



# 新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉100歳の誕生日まであと1か月

発行 新美南吉生誕100年記念事業実行委員会 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内



## 南吉さんの端午の節句

賑わうGWの新美南吉記念館

- 1 新緑を眺めながらの呈茶会。お菓子は狐の顔をかたどった特製羽二重餅
- 2 工業高校生の説明を聞きながら機械の操作に挑戦
- 3 東京から18人で駆けつけた「語りよみ五十葉舎」

から五日（日）までは「南吉さんの端午の節句」を開催。三日にストーリーテラーの小林サヤ佳さん、四日に東京都町田市の「語りよみ五十葉舎」による朗読会を行いました。子どもの日の五日には、甘い物好きだった南吉にちなんで「スイーツ男子 南吉さんの呈茶会」（茶道裏千家淡交会 愛知第三青年部）、「ごんぎつねキーホルダーをつくらう」（半田工業高校生徒）、「ごん吉くんハーブシャボンづくり」（都築美都子さん）など体験型行事もあり、子どもたちの人気を集めていました。

**生誕** 百年を迎えた今年、新美南吉記念館は、県内外から訪れるお客様で連日賑わいました。

連休初日の四月二十七日（土）、スズキコージや宇野亜喜良など二十五人のアーティストによる「私の新美南吉展」がスタート（六月末まで）。この日はFM愛知「サタデーエクスプレスSP 生誕百年新美南吉」の生放送もありました。連休後半の五月三日（金）

連休中の入館者数は四六八九人。一月のリニューアルオープンからは四万三千人を超えました。これは約一万人が参加した正月の開幕祭を差し引いても昨年度の二・五倍のペースです。お客様の中には、静岡市美術館で生誕百年記念巡回展を観たという家族連れ（静岡県）や三日かけて半田と安城を回るという女性（島根県）など、熱心な南吉ファンの姿も多く見られました。

## 後援事業も全国で開催中

新美南吉生誕百年記念事業実行委員会では、市民や団体、企業によって企画実施される記念事業を後援しています。全国に広がる後援事業の一部をご紹介します。

### 五月三日（金）・四日（土）、千葉県野田市

で「朗読フェスティバル in 野田 新美南吉大会」が行われました。

大会は「東葛（千葉県北西部）を朗読の聖地にしよう」と、俳優で演出家の梅田宏さんを中心に昨年から始まりました。南吉をテーマにした今年は、野田市と近隣市、都内などから十三の朗読団体が出演。「ごんごる鐘」や「丘の銅像」（写真）など様々な南吉作品が朗読劇として演じられました。両日とも新美南吉記念



館から館長が出席して祝辞を述べ、参加団体と交流を深めました。

\*

### 今後の後援事業予定（県外）

- ・六月九日～十日「名作実験公演VI新美南吉生誕100年・その世界」主催：草加劇場（埼玉県草加市）
- ・七月四日 音楽会「新美南吉文学が奏でる音楽、そして歌たち」主催：リーベススリーダー ※東京二期会所属（東京都練馬区）
- ・七月二十七日～二十八日 朗読会「未来へつなぐ南吉の世界」主催：語りよみ五十葉舎（東京都町田市）
- ・七月三十日、九月三十日 ロシア語・ペラルーシ語による朗読会 主催：日本文化情報センター（ペラルーシ共和国ミンスク市）
- ・十二月二十一日 谷悦子氏講演会「新美南吉童話の魅力―哀のある愛の世界―」主催：梅花学園生涯学習センター（大阪府茨木市）



## 南吉の魅力ポスターで伝える

四月二十七日（土）、東海地方と東京の印刷会社四社による「ブリ・テックグループ」で新美南吉をテーマにしたポスターコンペが行われました。

社員のデザイン力とモチベーションアップのために行われる社内コンペで、会場にはそれぞれ工夫を凝らした応募作品四十点が並びました。半田市観光協会や新美南吉記念館の職員も加わって審査が行われ、上位四作品が表彰されました。応募作品は、七月二十七日（土）から八月四日（日）まで雁宿ホールで行われる「新美南吉生誕祭」で展示される予定です。

## 生誕百年記念出版



### 『良寛物語 手毬と鉢の子』

今は数多くの童話集や絵本が出版されている南吉ですが、生前に出すことができなかった本はたった二冊でした。その内の一冊で処女出版でもあるのが昭和十六年に学習社から出版した『良寛物語 手毬と鉢の子』です。南吉にとつて一番の長編作品でもあります。

現在、『校定新美南吉全集』（昭和五十五年・大日本図書）でしか読むことができません。

この作品が生誕百年を記念して中日新聞社から再び出版されることになりました。監修と解説は、校定全集の編集者である保坂重政さんが担当。南吉による前書きと後書き、良寛・南吉の年譜も収録し、読みやすいように現代仮名遣いに直されています。

B6判・本体価格一三〇〇円十税 中日新聞社（七月上旬発行予定）

実はこの「良寛物語」、良寛の地元新潟県でも出版

準備が進められていて、一足早く五月末に出版されました。こちらは学習社版ではなく南吉の自筆稿から起こした内容で、出版を計画した上越市の中学校教諭阿部浩さんによる資料編も収められています。

一八〇〇円 北越出版  
千九四三―〇八三三 新潟県上越市大町一―二―二二 阿部浩宛に葉書で注文

別冊『太陽』「生誕100年記念 新美南吉」  
平凡社が発行し、学術的ビジュアルムックとして人氣が高い別冊『太陽』。これまで金子みずゝ、池波正太郎、泉鏡花など幾人もの作家を紹介してきた同誌が、生誕百年を記念して新美南吉を取りあげます。

南吉の生涯だけでなく、その文学世界を美しい写真と共に紹介。併せて、南吉が日本文学の近代化に果たした役割という、これまでない切口で作家に迫ります。巻頭には五木寛之さんによる特別寄稿も。  
A4変形判・一六〇頁・本体価格二五〇〇円十税 平凡社（七月発行予定）

## 第25回新美南吉童話賞 生誕100年記念「幻の童話」部門募集

新美南吉の日記やノートには、童話の構想や題材になりそうな出来事のメモがたくさん残されています。しかし、29歳で亡くなってしまったこともあり、その多くは作品になりませんでした。生誕100年の今年、そうした南吉のメモを基にあなたが童話を書いてみませんか。

※この募集は例年行っている新美南吉童話賞の特別部門です。通常部門など詳しくは南吉記念館のホームページをご覧ください。

- 大賞 1編 賞金20万円
- 優秀賞 (一般・小中学生) 各1編 賞金3万円
- 対象 小学4年生～大人
- 枚数 400字詰原稿用紙5～7枚



- ・原稿は必ず縦書きで、濃い筆記用具を使用すること。(パソコンの場合は1枚20字×20行で印刷)
- ・部門名・題名、郵便番号、住所、氏名(学生の場合は保護者名も)、年齢(学生の場合は学校名・学年も)、電話番号を記載した紙を1枚添えること。なお、「幻の童話」部門については基にしたメモの番号も明記。
- ・応募作品の返却はしません。入選作品の著作権は半田市教育委員会に帰属するものとします。
- ・下記の構想メモの中から1つ選んで、それを基にオリジナルの作品を書いてください。基本的な構成や核となる出来事がメモに基づいていれば、登場人物の性別・年齢・立場や出来事の細かな部分などは変更しても構いません。

- ①こがね虫は金持ちだ、と子供が歌っている。その歌をきいてびっくりしたこがね虫のこどもの話。(童話)(昭17.6.11)
- ②よく笑う少女が学芸会でよく笑う人間の役をふられそれ以来笑うことをやめてしまった話。(昭16.11.8)
- ③僕は終電車のあとで青い火をともして真夜に走る幽霊電車のことを書こうと思っていた。それにある夜酒に酔った男が知らずに乗ってしまうのである。(昭16.12.12)

- 応募期間 平成25年6月1日(土)～9月17日(火) ※当日の消印有効(海外からの応募は当日必着)
- 応募先 新美南吉記念館 新美南吉童話賞係 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1
- 発表 平成25年11月下旬予定(入選者のみに連絡します。ホームページでも発表します。)
- 審査員 浜たかや(児童文学者)、末吉暁子(童話作家)、藤田のぼる(児童文学評論家)、酒井晶代(児童文学研究者)、知多管内小中学校教諭ほか
- 主催 半田市教育委員会・新美南吉生誕100年記念事業実行委員会



「ごん吉くん」ポロシャツ発売します

新美南吉生誕百年を記念して、半田市観光協会が「ごん吉くん」ポロシャツを発売します。

販売価格：税込二一〇〇円  
 カラー：ブラック、ネイビー、レッド

サイズ：S・M・L・XL  
 販売場所：cafe & shop ごんの贈り物(新美南吉記念館内) 知多半田駅前観光案内所(クラシティブン半田3階)

問い合わせ：電話〇五六九一三二―三三六四(観光協会) 発売時期：六月下旬

七月の生誕祭まであと一か月。南吉先生をPRする僕の仕事もいよいよ忙しくなってきました。

四月には市職員のボランティアさんと一緒に名古屋栄の「サン・ジヨルデイフェスティバル名古屋2013」(写真)と南知多ビーチランドの「知多半島感謝デー」に行ってきました。五月は市内亀崎地区の潮干祭。ちゃんと地元でのPRも忘れないよ。

会場では、南吉先生の紹介パネルや絵本を見てもらって、チラシを配るんだ。缶バッジ作りや僕の握手会をすることもあるよ。大きなイベントだと他の町のキャラクターも来ているけどいつも僕が一番人気だよ。



ごん吉くんの生誕百年PR日誌

# 新美南吉と名鉄河和線

……「春の電車」から幽霊電車まで

「春の電車」

わが村を通り  
みなみにゆく電車は  
菜種ばだけや  
麦の丘をうちすぎ  
みぎにひだりにかたぶき  
とくさのふしのごとき  
小さな駅々にとまり  
風呂敷包み持てる女をおろし  
また杖つける老人をのせ  
或る村には子供等輪がねをまわし  
或る村には祭の笛流れ  
ついに半島のさきなる終点に  
つくなるべし  
そこには春の海の  
うれしき色にたへたらむ  
そこにはいつも  
わがかつて愛したりしをみなをりて  
おろかに心づるはしく われを  
待つならむ  
物よみ 草むしり  
小さき眼を黒くみはりて  
待ちてあらむ  
われ けふも みなみにゆく電車に  
わが おもひのせてやりつれど  
その おもひ とどきたりや  
葉書のこゝろごときたりや



南吉童話の世界が広がる半田口駅



新美南吉記念館の最寄り駅といえば「半田口駅」。名鉄河和線の交差点もない無人駅だったこの駅が、三月末、突如として「ごんぎつねの駅」に……

いつても、それはあくまで愛称のこと。しかし、ホームや駅舎の至る所に「ごんぎつね」「手袋を買いに」「赤いろうそく」など南吉童話の絵や人形が取り付けられ、駅全体が南吉一色に生まれ変わりました。

これは生誕百年に電車で南吉のふるさとを訪れる人を童話の世界の雰囲気迎えようと、名鉄の協力を得て生誕百年記念事業実行委員会が設置したものです。装飾は駅の外側にも。名古屋方面からの下り線改札を出ると、そこには南吉の詩「春の電車」の全文と菜種畑や電車など詩の世界をイメージした絵が広がります。

南吉は病気で東京から帰った後、昭和十二年の四月から七月まで河和第一尋常高等小学校（現・美浜町立河和小学校）に代用教員として勤めました。当時は知多鉄道といった河和線の

電車に乗り、毎日、半田口駅から終点の河和駅まで通いました。海の見える高台の美しい小学校で子どもたちと触れ合う生活は、帰郷以来の傷ついた心を癒してくれます。同僚教師の山田梅子さんとのロマンスもまた南吉に生きる力を与えてくれました。

結局、梅子さんとは翌年春に別れます。南吉は安城高等女学校の教師となりますが、その一年後に作った詩「春の電車」には、河和を懐かしむ思いが明るく穏やかに綴られています。

\*

女学校で勤めるようになって三年目の暮、南吉は知多鉄道の電車に幽霊が出るという噂を聞き、次のように日記に書いています。

この頃太田川のあたりから若い女の幽霊が終電車にのるといふ噂だそうである。彼女は洋装をしパーマネットである。いつも電車の後部に乗る。太田川のあたりでいつの間にかちゃんに乗っている。常滑ゆきにつて常滑の方へ行ってしまうこともあるし、河和行にのって、成岩あたりまで

来て、いつの間にか下りてしまうこともあるという。（中略）僕は終電車のあとで青い火をともして真夜に走る幽霊電車のことを書くうと思っていた。それにある夜酒に酔った男が知らずに乗ってしまうのである。

さて、南吉は幽霊電車に乗ってしまった男をどうするつもりだったのでしょうか。晩年（といってもまだ二十代）の南吉は、こうした構想メモを幾つも残しています。中には「うた時計」や「おじいさんのランプ」など実際の作品に繋がったものもありましたが、間もなく彼が亡くなったこともあり、多くは日の目を見ませんでした。

今年、新美南吉記念館では、毎年行っている「新美南吉童話賞」に特別募集として「幻の童話」部門を新設します。南吉が残した「幽霊電車」はじめ三つの構想メモから一つ選び、オリジナルの童話を創作するもので大賞賞金は二十万円。生誕百年の記念に、南吉とのコラボに挑戦してみたいかが？ ※募集の詳細は三頁をご覧ください。